山岳クラブ／グーテンタック（ドイツ語　こんにちは）

月報 やまふみ

シラヒゲソウ

No.228　2014年（平成 26 年）11月9日発行　山踏み

会　　長　　／MT
事務局長　　／TK
ホームページ／http://guten-nagano.com/
編　　集　／ST　TS　TT
印　　刷　／中央プリント（株）

もくじ

山行報告　・・・・・・・・・・・・　1～17
編集後記　・・・・・・・・・・・　21～22

７月３日～１８日　ピレネー山地　オルデサ渓谷トレッキング

I 藤

フランスとスペインの国境に3000m 峰が 10 座ほど連なるピレネー山脈がある。氷河によって削られた U 字谷と険しい峰、そして多くの高山植物があることで知られている。フランスからこの山脈の峠を越えるトレッキングをしてスペインに入り、各地を旅行したいと思った。旅行会社によるパックツアーが日本から出ているが高価なうえに個人的な自由がきかず、自分の旅行スタイルとは違う。いつものように個人旅行をしたいと思い、現地に入る交通機関や山小屋の様子をインターネットで調べたがこれらの情報が見つからない。しかたなく、フランスから山越えすることをあきらめ、スペインのピレネーに近いバルセロナに入り、そこで情報を集めてこの山域を歩いてみることにした。

バルセロナに到着した翌日（金曜日）、ピレネー山地の情報を求めてホテルからインフォメーションセンターを探しに出かけた。ガイドブックの地図にある地点を探したが見つからない。片言の英語で通行人などに尋ねると、英語が出来る人を連れてきて、親切に教えてくれるものの、教えてもらった所に行ってもそれらしい建物が見当たらない。こんなことを何度か繰り返し、猛烈に暑い日差しの中を1時間近くも歩き回ってようやく見つけた。

しかし、探し当てたセンターはバルセロナ市内の情報が専門で、別のセンターに行くように教えられ、さらに30分ほど歩いて探しあてた。しかし、ここでも、ピレネー山地に関する情報は扱っていないと断られ、途方にくれていると、対応してくれた女性が、スペインの地図を取り出し、ピレネー山域のオルデサ自然公園が世界遺産にもなっており、素晴らしい所だからと薦めてくれた。さ

らに、そのオルデサに近いトルラ村に行くバス時刻表をパソコンで打ち出してくれた。バスは明日の土曜日は無く、日曜の午後出発するのが一番早く、それを使うことにして、2日間、バルセロナ市内を観光する。 初日はツーリズムバスに乗って市内を観光、翌日は市場や教会を見た後、バルセロナ港から出る地中海のクルージングを楽しんだ。

オルデサ自然公園 日曜の昼、高速バスに乗ってピレネーを目指した。夕方に路線バスに乗り換え、山の中を走って、終点に着いたのは、夜の9時半、ここから目的地のトルラ村までタクシーで行かなければならない。暗く人気の無い町でタクシーを探したが見当たらない。近くのホテルに飛び込み、英語が出来る人を呼んでもらって事情を話し、タクシーを呼んでもらった。迎えのタクシーに乗って山道を走り、トルラ村着いたのは夜の10時を過ぎていた。ホテルでは英語の出来る女性が待っていて対応してくれた。言葉が殆ど通じない異国の地を9時間も乗り物を乗り継ぎ、ようやく目的地に着くことが出来ほっとする。近くのレストランでちょっと贅沢な食事をする。

（トルラ村のホテル）

この国では週末は長距離バスの運行は少なく、インフォメーションセンターも休んでいる。夜は日付が変わる頃までレストランなどは賑わっていて、朝の活動が遅い。人々は親切だがアバウトな感じがして、日本とは違う国民性を感じた。

翌日はホテルで作ってもらったランチをザックに詰め、ホテルのオーナーにオルデサ公園まで、車で30分程を送ってもらった。公園のゲートは標高1500mほど、杉や白樺、ポプラなどが茂る林の中の整備された道を歩く。道の脇は豊かな水が流れる渓谷で、梢の向こうに岩山が聳え、渓流の音を聞きながら歩く道は、上高地の梓川沿いの道に似た感じもする。オダマキやギボウシなどの花が咲いている。2つほど大きな滝の脇を登ると、森林帯から抜け、視界が開けてくる。氷河が作ったU字谷の底に広い草地が広がり、両岸は険しい壁で、はるか見上げる彼方にまだ雪を乗せた険しい峰々が続いている。（谷を登る）ハイカーや大きなザックを背負った登山者と一緒に谷の奥を目指して歩いた。草地にはアネモネやキンポーゲなどのお花畑が広がり岩場には虫取りスミレ、岩タバコなどの仲間が多く見られた。左手にトバコール山（2751m）が覆いかぶさるようにそびえ、中腹の岩場から大量の水が湧き出していた。

（山腹から湧き出す水）

（虫取りスミレ）

正面にはモンテ・ペルディド（3348m）と思われる岩山が聳え、それに向って4時間ほど沢沿いの道を歩いた。やがて、行く手が20m 程の滝とその両岸は切り立った岩場によってさえぎられ、岩場にはクサリがとり付けられていた。

地図ではこのクサリ場を越えた先に山小屋があり、モンテ・ペルディドの登山基地になっているようだ。テントなどを背負った登山者が岩場を登っていく。この先に見える景色に強い興味をもったが、登山の準備もなく、ここで引き返すことにする。

（折り返し点の滝）

滝の上の大きな岩の上で、フランスパンにハムやチーズを挟んだサンドウィッチのランチを食べた。標高はおよそ2500m、上空には澄んだ青空、眼下には広く雄大なU字谷が広がっていた。遠い異国の山の中で、この広い谷が氷河で満たされた景色を空想したりして楽しい時間を過ごした。帰り始めると、先ほどまで青空が見えていた空に雲がかかり始めた。まもなく空一面が黒い雲に覆われ、谷間に雷鳴がこだまし、やがて激しい雷雨となった。雨の中を走るようにして下山、ゲートに到着するとホテルのオーナーが車で迎えに来てくれていた。ゲート脇のレストランに入り、オーナーやこの公園を管理するスタッフらと身振り手振りで談笑（？） 日本からこんなところに1人で来るのは珍しいらしい。ホテルへ帰る途中。車窓から川向こうの草地に2頭のイノシシが見られた。

翌日、フランスに抜ける登山道がある別の渓谷に入る予定でいたが、天気予報によると明日も引き続いて雷雨とのこと。今日１日のトレッキングでピレネーの山や U 字谷、そして珍しい高山植物も見られたので、トレッキングはこれで終わりとする。今朝、出発前に予約しておいたこのホテルでの、もう1泊をキャンセルさせてもらう。いろいろとお世話になったホテルの人にお礼を言って、翌早朝、ピレネーを後にした。

スペイン一人旅

翌朝、タクシー、長距離バス、AVE（高速鉄道）を乗り継いでマドリッドに向かった。車窓から収穫期を向えた黄色い麦畑が地平線まで広がっている。マドリッドで2泊し、プラド美術館などをゆっくり見学、その後、高速バスでグラナダに向った。グラナダの最大の目的はアルハンブラ宮殿の見学で、Iphone を使いインターネットで調べると明日の入場券は売り切れになっている。困ったことになっが、現地の日本語案内センターに電話を入れると、1枚だけ残っていた入場券を分けてもらうことが出来、2日間見学や散策を楽しんだ。

コルドバへは高速バスを利用、車窓からオリーブ畑やヒマワリ畑が果てしなく続くアンダルシアの景色を楽しんだ。コルトバで、巨大なイスラムのモスクを改造した大聖堂（メスキータ）やユダヤ人街を見学。マドリッドに戻って帰国の途についたが、格安航空券を使っての旅は、乗り継ぎ時間が長く不便なことが多い。今回もイスタンブールで20時間ほどの乗り継ぎ時間があり、その時間を利用してトルコに入国、アジアとヨーロッパを分けるボスボラス海峡を黒海の入り口までのクルージングを楽しんで時間つぶした。

言葉の通じない国を1人で歩いたが、危険な目に合うことも無く、親切で明るい人々に助けられた。登山やトレッキングの旅は天気などの関係で予定が定まらず、宿を事前に決められない不安があるが、最近は Iphone を使って、現地で日本語で宿をとる事が出来るようになり、一人でも心配なく旅を楽しめるようになった。

９月１３日（土）～１５日（月）　北鎌尾根（例会山行）

L:K 池　S 谷　T 井　K 原

はじめに

若くして夢中で読んだ『単独行』『風雪のビバーク』。私にとって北鎌尾根は憧れのコースだった。しかし、元々、体力・運動神経・バランス感覚・登攀技術・精神力・判断力 etc に秀でたものなく、とうに還暦を過ぎた私にはもう無理と諦めていた。一昨年、K 池さんから「大丈夫、行ける!」と言われ、半信半疑ながら一抹の期待を持っていた。そして、その時はやってきた。

9/12(金)

沢渡前日泊の計画で 7 時過ぎ K 池さんに自宅へ来て貰い、集結場所の波田役場へ。S 谷さん・T 井さんと合流し、荷物を整理して T 井さんの 1Box に乗り込む。新島島の 7-11 で食糧調達予定だったが、棚にただ 1 個のおにぎりも無く、買い出しに戻る。雨続きだった今シーズン初めての好天候休に「何時行くの ？ 今でしょ ！ 」と繰り出した人多く、我々の考えが甘かった。P はほぼ満杯に近かったものの、足湯傍に駐車でき安堵。酒・夕飯持参で浸かりに。やや熱めの湯に心地よく酔い・温まり、T 井 Wagon のルーフ寝床へ。詰めれば 5 人寝られるというこの車、180 万だったとは何と安い ！

9/13(土)

沢渡→上高地→明神→徳沢→横尾→槍沢ロッジ→水俣乗越→北鎌沢出合(テント泊)

　寒くて何度も目を覚ました夜もやっと明け、いよいよ初日。(S 谷さんに『軽量化!』を念押され夏用のペラペラシュラフ持参した自分が甘かった(>_<)) S 谷さんから車中泊用の寝袋を貸して貰い、パッキング。この日は個々適当に朝食・行動食を取りながら進む。バス停に向かう途中、運よく通りかかったタクシーをK 池さん呼び止め、ラッキー乗車となる(流石リーダー、伊達に年は取っていない)。

　上高地 BT は観光客・ハイカー・登山者・登攀者でごった返していた。山ガールも多い。トイレを済ませ、北鎌を目指す。遊歩道は数珠繋ぎだ。他パーティーは早足でどんどん先に行く。明神・徳沢・横尾を過ぎると、登山者は 1/3 位になった。大方は涸沢行きだ。一ノ俣・二ノ俣を過ぎ、槍沢ロッジまで 1:30 歩いたが、なまった体に疲れ出始め、股関節も痛み始めてしまった。(今こんなでは…)と不安がよぎる。ロッジの椅子はほぼ満席。北鎌に入ったらもう戻れない。メンバーの足を引っ張る事態が脳裏に浮かび、「自分は槍だけにする」と申し出るが、「大丈夫、北鎌出合まで行こう」とのK 池さんの返事。結論は先送り。

水俣分岐からジグザグの急斜面を登る。他のパーティ—も皆北鎌狙いだ。紅花イチゴ・クロウスゴの実もちらほら。乗越まで来たが、ペース遅れ気味で今日の目的地は北鎌乗越し→北鎌沢出合に変更となる。小休後、多くの先行パーティ—を追って我々も天上沢へ直に落ちるガレガレザラザラの溝を下る。スリップ・落石当たり前の酷いルートだ。確かにバリエーション。途中からに右手の草付きの踏み跡に逃げ、楽になる。傾斜が緩むと沢底のゴーロとなった。男女 2 人パーティ—と抜きつ抜かれつしながら下り、間ノ沢を合わせて更に下って行くと幕営準備の単独行者がいた。

逆コースで来たという。得た情報は、北鎌コルは糞だらけで臭っている。出合にも既に何張りもある。流れは出合やや上で枯れているが北鎌沢にも流れはある。等々であった。しかし、「ウンコのコル」下の水なんか飲みたかない! 本流の水流の切れる手前で張ろうと天場を探しながら行く。先の二人パーティ—と競争だ。我々はツェルト 4 張り、下って行くと小石＆砂の格好の場所を発

見 ！ 同時に着いたが「ここはいい場所だな～！ 」と先に声を出して場所確保。伏流となる直上・流れから 1 分・水音も聞こえないルート上で最良の天場だった。
殆ど水平に近かったが、更に手直ししてツェルトを張った。杉谷さんの指示で流木を拾い、早速焚火。沢屋だけあって流石手慣れたもんです。各自持ち寄りのつまみを噛みながら杉谷さんのウイスキーに暫し酔う。明日の晴天も約束され、至福の時を過ごす。ローペースだった我々の後からも夕闇迫る頃まで何パーティ―も下ってくる。夜半外に出れば頭上に満天の星 ！ ここまで来てしまえば登るしかない。腹は据わった。

9/14(日)
北鎌沢出合→北鎌コル→天狗の頭→独標巻道→北鎌平→槍ヶ岳→殺生小屋天場
　S 谷さんの寝袋のおかげでよく眠れ、4 時起床。1 時間はあっという間に過ぎ、5 時出発。水は 1.5l。沢を左に回り込む所で左から急な小沢が合流。これが北鎌沢だった。コルまで標高差 650m、直に突き上げる今日一番のハードな登りだ。流れはあるが靴が濡れることはない。途中 3 人大キジを打ち、体も軽やかに?登る。左俣を過ぎ右の枯沢に入る。うっかりすれば見過ごしてしまいそうな分岐だ。やがてルートはガレガレの溝となり、滑り落ちそうで疲れる。
2150m 手前で左にルートを外れたため、右に修正。やっぱりナビは頼もしい。2350m 辺りで右の「クライマーズホイホイ」に至るルートへ迷い込んでしまう。またもや杉谷氏の指摘でナビ確認、修正する。自分も×印に全く気付かなかった。足元崩れる溝を嫌い、先頭で草付きの踏み跡にルートを取る。右の岩場から来る先行パーティ―に続き岳樺のコルを目指す。飛び出せばそこはコルより僅か上の 2565m 稜線、680m の登りだった。(ルート取りは過去の記録を見てもこのパターンが多い)西側にテント一張り可能。振り返れば出合が目の下だ。
大天井からの貧乏沢急降下ルート・中間の目安滝もよく見える。ここでメット装着。稜線上からは、大天井からの一日踏破組(ガイド付きパーティ―・単独・他)と抜きつ抜かれつの登りとなった。先頭杉谷さん・次にＫ原・T 井さん・K 池さんと続く。部分的に岩を攀じったり木に捉まったりだが、踏み跡は明瞭、バリュエーションルートとはいえノーマルルートに近い。主に天上沢側を巻いていくが、一歩踏み外せば奈落の底。気は抜けない。標高差 250m を攀じれば天狗の腰掛け(P9・天場あり)。裏銀座・水晶・赤ザレの硫黄尾根…ここからでしか望めない景色を楽しむ。目の前には独標が大きい(あの右手を巻くのか…滑落不安トラバース・有名逆コの字潜り・小チムニー…)。主に千丈沢側を巻いて左に大きく巻き込んで行くと足元崩れ落ちる不安定なガレ場登りとなる。暫し進むと赤ザレの独標基部到着。
先ずは写真で見慣れた色あせ緑ロープ部トラバース。右手切れ落ちで一歩踏み外せば滑落必至。ロープは頼りにせず、目の前のホールド・スタンスを確認しながら慎重に進む。恐怖心を感じる余裕はなかった。

少し巻くと上りトラバースに渋滞する先行パーティ―が見えた。そこが「逆コの字ハング潜り」と思えた。手前で様子見とする。先行者見えなくなったので前へ。行ってみると、ネットにあったように右手下に確実なスタンスあり難なく通過。その先にスリング掛かる短チムニー出現。先行女性パーティ、身長・腕力不足で難儀中。

すると、S 谷さん進み出て右手でリュックを押し上げ続いてお尻も！（巷でやったら痴漢騒ぎで大問題！…山はいいよね～）その後は先に登ってザイルを下ろし引っ張り上げる。自分は登れるか？とトライ。ホールド少なめだったが、右手腕力で強引に攀じ上る。その先独標への急なスラブ現れるが、巻き道明瞭なのでトレースを辿る。若干の上り下りを含むルートを進み、足元崩れ落ちる登りを慎重に進むと稜線に出た。少し進むと P12。目の前にこれから登る槍が大きく聳えるルート上第一の絶景ポイント。平坦地もあり(ここで休まにゃどこで休むの!?) と休憩にする。個々でまた全員で記念写真を撮る。ここまで来れば今日の行程の半分以上、2/3 位か。
その先白いザレた尾根(P13?)を登り、尾根沿いを基本にルートを取る。独標を過ぎれば大したことない、距離が長いだけだと勝手に勘違いしていたが、実際歩いてみるとむしろ後半の方が悪かった。ルート不鮮明(当たり前か)・足場は浮石でガレガレ、ホールドも不安定で不用意に体重を掛けられない。どこが P 何なのかよく解らないが、稜線沿いルートを基本に杉谷さんの後を追う。
幾つかのコブを越え、巻いて行くと、突然ガラガラガラ! という大きな音と「キャー! キャー! 」という女性の叫び声が聞こえた。見ると尾根右下に黄色ウエアーの登山者が一人、その下手前に青ヤッケー人。暫く様子を見ていたが後者は全く動かない。崩落した岩と共に滑落してしまったようだ。前に進むと手前のコブに 1 パーティ―が停滞している。先が詰まっていて動けないとのこと。聞くと警察へ救助要請の連絡を頼まれたという。折しも晴れていた稜線に霧が湧き始め、ヘリ飛行が危ぶまれる様相となってきた。コブ先に進むと、コルにリーダーと思われる男性が一人(ハーネス無し)、ザレたガリー下 10m にザックを背負ったままの青登山者が座っている。
コルからザイルを垂らしてはいるが、落ちそうで傍に行けないという。足も腕も動かせないという遭難者は放置されたままだ。気温下がり、骨折でもしていればショック症状も出る。早く保温して応急処置しなければならないのに、K 池さんの細かなアドバイス・援助を聞く気もない。気の毒なのは当事者だ。なすすべなく我々は先へ進んだ。(結局ヘリ救助できたのは、我々が殺生小屋上の天場で寛いでいた黄昏時になってからだった。帰宅後の新聞記事でこの男性の怪我は打撲と分った。軽く済んだのは幸運だった。この日午前中には同じ北鎌尾根で女性が落石を頭に受け骨折するという事故もあった)
　尾根を直上し 2980m 峰(P15)を右から巻いてザクを登ると、快適そうな天場のある北鎌平だった。小休後更に進むと、10 人位のガイド付き中高年パーティ―と思われる集団のいる天場に出た。此処からは、穂先に繋がる最後の登りだ。とうとうやってきた! 最終氷期の凍結破砕作用によりガツガツに割れた槍穂高カルデラ火山の凝灰角礫岩の巨大礫に乗り移りながら歩を進める。疲労溜まった脚は思うように動かない。S 谷さんに遅れながらも後を辿る。傾斜きつくなる頃穂先の基部に着いた。下の小チムニーを攀じり、上のチムニーに着く。K 池さん、ルートが違うと言う。皆で右往左往して探すが他にそれらしき所は見つからない。頂上に人影も見える。チムニーはネットに幾度となく掲載されていたものだ。S 谷さん、トップで右の岩に取り付く。少ないホールドを探し強引に攀じ上る。次は自分だ。下ろして貰ったザイルをカラビナにセットし、登攀 ？最後は腕力でテラスへ。次は T 井さんだ。体重あるということで二人でビレ―。(ここで小ハプニング)最後は K 池さん。左手目印の杭

を見やって最後の一登りで社の横に出た。

やったー! とうとう踏破した ！

互いに健闘を讃え感謝の気持ちを込めて握手。そして 4 人全員で記念撮影。肩からのルートは順番待ちの登山者で長蛇の列。聞くと午前中から 4～5 時間待ちだという。驚きである。順番待って下りにかかる。バテバテヨレヨレであっても、北鎌をやってきた手前へっぴり腰は見せるわけにはいかない。心して下る。殺生の天場はカラフルなテントに埋め尽くされている。小屋裏にスペースがあるが、多分ヘリ用だろう。東鎌尾根側に 1･2 カ所空きが見えた。S 谷さん早足で確保に向かう。しかし、そこにも人が入る。結局最上部天場外に 4 張り確保。小屋へ行きビール･水購入し、天場で乾杯する。日は傾き、槍が幻想的な赤紫色に染まる。冷えてきたが完登した後のビールは格別 ！ 後は個々にテント内で余韻に浸りながらの夕食だ。

9/15(月)

殺生天場→水俣分岐→槍沢ロッジ→横尾→徳沢→明神→上高地→沢渡(入浴)→波田(解散)

割と暖かな夜を過ごす。東鎌をシルエットに東の空は茜色の朝焼け。今日はゆっくりだ。坊主岩小屋を覗き、紅花苺や黒臼子を摘まみながらの下山。今年は雪が多かったと見えて２２００m付近には雪渓が残る。登山道脇には大輪の信濃金梅が群落を作って咲いていた。「岩魚だ ！ 」S 谷さん、透き通った流れに 40～50cm もの大物を発見。禁漁のため人間を見ても全く逃げない。悠々と淵を泳いでいる。槍沢ロッジ･横尾で休憩し、徳沢では名物のソフトクリームを味わう。甘さ控えめ･ボリューム満点で 400 円也。ほてった体にはちょうど良い。後の楽しみは沢渡の風呂と帰宅後のビール ！ 観光客･ギャルハイカーや二人連れに目を伏せながらただ黙々と歩く。三連休最終日。バス･タクシー待ちの長蛇の列が目に浮かぶ。S 谷さん場所取りのため先行。誠に感謝感謝。河童橋先で電話が入る。直ぐ来れば待たずに乗れるそうな。(こりゃあラッキー ！)と足を速める。ターミナルのバス待ちは各列 20～30 人までだ。着くと同時に乗車して下山。沢渡では梓川温泉(720 円)で汗を流し、波田役場で解散。超ラッキーな北鎌でした。

おわりに

幸いなことに、今夏～秋シーズン初めての最高好天気･良きリーダーや仲間に恵まれ、不可能と諦めていた本コースをトレースすることができた。仲間にはただただ感謝である。岩登りの経験無く、それに次ぐ経験は、若き日の 10 月単独テント泊表銀座～西穂高縦走のみ、最近はリフト利用の軟弱山スキーが専らの自分にはちょっとキツイ山行であった。**今回体験して感じたことは、兎に角「体力勝負」ということ**である。穂先へのチムニー横壁登りで杉谷さんに引っ張り上げて貰った(チムニーの経験が一度もなかった)以外に特別に難しいと感じた部分は無かった(But 一歩踏み外せば滑落は確実)。本コースに入山する者としては私が最低のレベルかと思っていたが、実際行ってみるともっと低い技術･体力と思われる女性もいた。しかし、私のような者でも完登できたのは、全ての面で運が良かったからに過ぎない。天候･岩条件･健康状態･パーティ―…どれ一つ欠けても不可能だっただろう。いくら運動神経が良くても判断力に優れていても、疲労困憊状態ではそれらを遺憾なく発揮することはできない。未経験の人には体験して貰いたい魅力溢れるルートではあるが、だからと言って誰でも安易に行く所でもないと感じた。　　K 原記

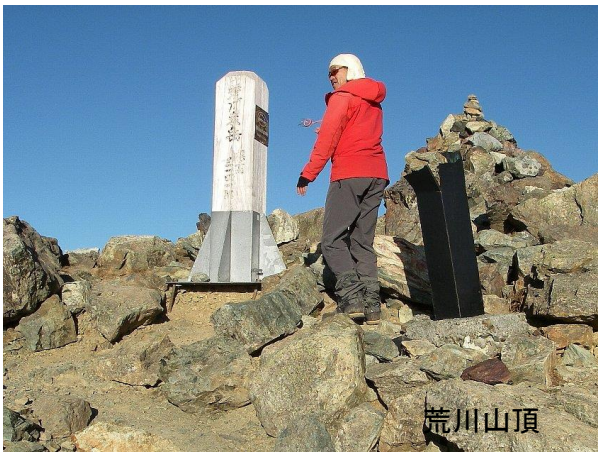
９月２７日（土）～２８日（日）　荒川三山（地味に地味山、個人山行）

メンバー　C佐藤(462)（別の意味の個人山行になりつつあるな～）
1 日目　登山口 6:00→入渓 7:00　→大河原小屋 8:45→大聖寺平 13:00　→赤石山 14:50→　荒川小屋 16:30
2日目　荒川小屋4:50→荒川岳6:40　→9:00荒川小屋9:30→大河原小屋12:30→登山口16:20

以前の沢行で体力不足を痛感したため、天幕装備を担いで一泊山行を行うことにした。最初は聖の予定だったが易老渡まで車が入れないことが判り、急遽別の山を探し小渋川から荒川三山に登ることにした。

深夜伊那谷を南下し、小渋ダム沿いを登山口に向かう、ここは有名な心霊スポットらしいがそちらの方は資質がないのかあまり気にならない。 手前の駐車場で仮眠を取り、明るくなりかけた頃に登山道へ向かう。登山口の駐車場に止まっている車は０台、まあ南アルプスの深部だしこんなもんか。身支度をして出発する、トンネルをくぐり橋を渡り一時間も行くと左から大きな滝が現れる、ここで登山道が無くなるため小渋川の徒渉用に持参してきた沢靴を装着する。

ガイドでは20回以上、時には腰までの徒渉とあるが、膝までの徒渉が 10 回程度ですんだ。キタ沢の合流地点から広い河原（まさに小屋の名前）になりルートが不明確になる。樹林帯の赤布にだまされて樹林帯の中でだいぶ時間をロスした。広河原小屋に沢装備をデポし船窪新道に向かう。ガイドではここから急登の連続とあるがきついのは最初に尾根にとりつくまでで、後はたんたんの高度を稼ぐことになる。船窪を過ぎ、ハイ松の間を抜けガラ場を越えれば大聖寺平にでる。 ここで、今山行初めて他の登山者とあう。天幕装備をデポしサブザックで赤石に向かう。結構疲れているのか歩みは遅いが、止まらなければいつかは着くものだ。


荒川山頂

一人の山頂で写真を撮り荒川小屋に向かう。小屋でテン場代を払いビールを購入し今日テント泊は何組くらいですかと尋ねると「Sさん一人です。」との回答、え～途中すれ違ったマットを背負ったお姉さんや、私より二回りほど大きな荷物を担いでた兄さんはどこに消えたの？

広い天場に一人テントを張り正面の富士山を見ながらビールをちびりちびりいただく。いつしか日も暮れ満天の星空、久々に星空を堪能いたしました。ささやかな夕食を終えるとやることもないので就寝する。 お休み。

山頂でリンゴ

赤石から見た御嶽噴煙

暗い中、男女の話し声で目が覚める。昨日の残りご飯と餅を暖めた雑煮を掻き込みヘッデン登山の開始、日の出前に稜線に着きたかったが残念ながら稜線手前で日が昇ってしまった。 稜線に出ればすぐに中荒川岳山頂に到着だ、ここからしばらく行き避難小屋を過ぎると下りになる。

山頂に向かう前の下りはいやなものだ。下って登って奥荒川岳山頂に到着、んん地味な山頂だ、南アルプス最高峰を北岳に取られ、知名度の点でも赤石に遅れ、へたをすれば「荒川三山？え鳳凰三山の間違えじゃない無いの」とあるとかないとか・・。

地味山シリーズにふさわしい盟峰である。秋なので山頂でリンゴを食って写真を撮って下山開始、途中で前荒川による。昨日最初にあったご夫婦と思われる二人の登山者に写真を撮ってくださいとお願いされた、「中々二人で写っている写真が無いのよね～」とか、ここから登山口まで人に会わなかったからこの二人が山行で最初と最後に会った登山者となった、不思議な縁もあるものだ。

下りはあまり急がないのでぼちぼち行く、広河原小屋でデポしてあった沢靴に履き替え小渋川を下る。川から離れても面度くさいので沢靴のまま駐車場に向かった。下界では御嶽が噴火したとかで家族から大丈夫かメールが来ていた。

まとめ

人気がない登山道かと思うが、踏み跡はしかっりしていて迷うことない（広河原で福川の出会いまでは樹林帯に入らないように）。 徒渉だがこの時期コケでぬめっていいるので沢靴を持参した方が良いと思う。 日の長い時期なら赤石・荒川どちらかの日帰りが可能と思う、二つやるとなるとヘッデン下山の可能性が出てくる、小渋の徒渉はヘッデンではやりたくないな。

９月２７日（土）　紅葉の巻機山（例会山行）

L:K 池　SL:Y 本　M 下　H 岡

[新潟、群馬の二県にまたがり、頂上付近の豊富な高山植物と神秘的な池塘(ちとう)群、緑の原生林に覆われた山麓、頂上からの展望の素晴らしさで知られています。....また、当山には特に珍しいアマツバメの営巣の洞窟があり、保護区に指定されています。] の　うたい文句のある　紅葉を期待して巻機山へ。

長野 20:30 発⇒桜坂 P　前泊
さすが 100 名山 am5:00　発でも　朝 1 番には遅い、暗いうちからヘッドランプがチカチカの登山者多し。雑木林の中の井戸の壁の急登のジグザグ道を登る。
→ 6:15　焼松 5 合　尾根へハァハァ言ってたどり着く。左斜面にブナ林、芽吹きの季節は良さそうです。展望が開け、米子沢が見え滝が見える。
→ 6:48　6 合目展望台(天狗岩展望所)　あれが

問題の[ヌクビ沢、割引沢」と話ながら休憩。
→ 7:30 7 合目　6 合目を過ぎると眺望が開け始めるが、相変わらず曇っているが、時折見える紅葉は見応えがあり。
→ 7:56 8 合目 風が冷たく寒いので、1 枚はおり、ガスの中を急な階段状の登山道を登り、広いなだらかな稜線上に出ると、狭い山頂の前巻機山（ニセ巻機山＝9 合目）。7合目まで同じ程度の標高差で立てられていた合目道標が 8-9 合目辺りは狭い感じがする。
→8:14 9 合前巻機(ニセ巻機)　前巻機山から避難小屋までは木道を一旦下る。周辺は池塘と草紅葉が見事。
→8:22 避難小屋　登山道の鞍部に避難小屋がある。

→8:50 御機屋(なぜか「巻機山の山頂碑」と「役行者」の石碑のあり）右は牛ヶ岳へ、左は割引岳へ至る稜線の分岐点)、風があるので、休まず右へ。
→9:11 巻機山（牛引－朝日分岐）山頂はケルンのみで、地図では最高地点となっているが、山頂碑がない。
山頂一帯にはなだらかな草原で、木道脇には池塘が点在している。
→9:26/50 御機屋へ戻る　山頂標識があってベンチもあり広場あるので、休憩に最適のせいか。先ほどは数人しかいなかった「御機屋」分岐は凄い人でゴッタガエシになっており、なんとかベンチに座り昼食。ガスもきれ、越後三山を眺められ、山容が特徴的な日本のﾏｯﾀｰﾎﾙﾝ大源太山や少し雲の掛かった仙の倉も紅葉の中に見える。
イワショウブが白い花から、ピンクの実に変わり、草紅葉となった木道を少し下って小さなピークを越え登り返すと、6 合目から観えた尖頭の割引岳頂上に到着。途中、ヌクビ沢からの登山者の方の話では、少し、いやな感じの所はあるが沢靴まではいらないとの事、その方々も山靴でした。
→10:15/20 割引岳(わりめきだけ） 夏には稜線ではワタスゲ、ハクサンコザクラ、タテヤマリンドウ、イワイチョウ、ニッコウキスゲ、ハクサンフウロなどが見られるのでしょう。
→10:50 またまた御機屋　草紅葉と緑のコントラストが、素晴らしく、全山錦秋の巻機山。
→11:20 避難小屋　ココも混んでる。米子沢からの沢ヤさんの姿もちらほら。
→11:45 8 合目 朝はガスで視界不良だったが、今はそれも消え見事な景色が広がり、米子沢を沢登りする人も見える。 →12:20 6 合目展望台 →12:45 焼松 5 合目 →13:30 桜坂 P

清水の民宿 「上田屋」で『山菜だらけ蕎麦』美味しかったねー さすが宮下さん地元の利！！錦糸ｳﾘの漬物も良かった。アマツバメの洞窟は何処にあるのだろう、残念ながら飛ぶ姿もなし！

クマさん記

９月３０日（火） 前穂高（個人山行）

L :U 木
登山口 5:35―ヒュッテ 8:29－紀美子平 11:27-ヒュッテ 14:20― 登山口 16:40

届は二人であったが相方の都合が悪く一人旅足が遅いしヘッドランプを使いたくないので朝 2 時に起きた。しかし姨捨で眠くなりいつの間にか寝てしまった。上高地からすぐの岳沢登山口で五匹くらいのさるがいてなぜか傍に来たのでまいった。もくもくと噴煙が出ている御嶽山。近くに

は焼岳が見える。煙はでてないが「ブルータス　お前もか」にならないようにお願いする。

噴煙をたなびかせる御嶽山

今　救助活動が続いているなか登山で楽しんでいる自分がいる。登山する山の候補だったので運が良かったと思う。

紀美子平に11時40分に着くが計算すると上高地に6時なりバス無で暗いので無理と判断して退却頂上まであと30分だが。ここで昼飯のクッキーを食べる。10人くらいが同席していた。奥穂の南陵やこぶ尾根方面をなつかしく見る。40年前に職場の若者と二人で登った懐かしいルート。下りの雪渓で少し滑落して相棒がヘルメットを破損した。あのときにヘルメットしてなかったらと思うといまでもぞーっとする。

　久しぶりに　奥明神沢をじっくりみる。ここをグリセードで下りたくて沢をつめて明神に登ったなつかしい沢（沢の名前だが 5 月に雪があるが今はカラカラ膝をかばいながらゆっくりゆっくりいつものように下る。バスが間に合うのかと心配で焦る。上高地には4時40分に着く　臨時最終便便が5時10分でラッキーだった。

Ｕ木　記

１０月４日（土）　仙丈ヶ岳（例会山行）

L:K池　　SL:Y本　　D原　K藤

長野 3:30⇒5:07 戸台口

[混雑期の週末なら、始発便より早い、5時頃からバスが出ることがあります]のｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ通り、切符を買って並んでいるうちに「今日は早めにﾊﾞｽが出ます」のｱﾅｳﾝｽ。切符を買ったらすぐ 5:30 の 2 台目のﾊﾞｽに乗車。お星さまは満天にﾁｶﾁｶで今日はご機嫌な山行になりそう。

⇒6:07　北沢峠はすごい混雑これは大変と思ったら、千丈方面ではなく皆さん甲斐駒方面へ。6:30　出立すぐに急登。ウヘ！　とおもったら。すぐに　→6:49 2 合目　たらたら道に。

甲斐駒と鋸岳

→7:08　3 合目　また急登。→　7:20　4 合目　細かい道標が視界の無い林を歩く唯一の楽しみ。

→7:44　大滝ノ頭 5 合目　→　8:08　6 合目　尾根に飛び出て視界が開け尾根道に到達。花崗岩の白さの目立つ甲斐駒、富士山、アサヨ峰が大きく見えるが北岳はどれじゃ？展望は開け、中央ｱﾙﾌﾟｽ、噴煙の上がる御岳、槍に穂高、八ヶ岳　良い眺め。

→8:41　　小仙丈ケ岳　小仙丈のカール、藪沢をはさんで樹間に馬の背ヒュッテ見える:49

→9:06　8 合目　多分ここは 8 月ごろは高山植物が咲き乱れていると思われるが今が枯葉植物。
→9:24　仙丈小屋分岐　仙塩尾根が見え始めるが風が強くなり、ジャケットを羽織らないと寒い寒い。ちょっとしたｶﾞﾚ場の向こうはすぐ山頂。

甲斐駒と紅葉

→9:57 仙丈ケ岳　写真を撮ったら、すぐｶｰﾙに下山。
→10:30 仙丈小屋　ゆっくりの昼飯。適度の混みよう:56　何かと話題になる鹿の食害対策の柵に両側を挟まれて、なんとなく檻の中をウロウロする気分で這松の中を下り、分岐を右。
→11:24 馬ノ背ﾋｭｯﾃ
→11：31　馬ノ背分岐　左藪沢ﾙｰﾄへ沢に沿って下る（沢を渡り直進すると馬の背　藪沢小屋へ）。残雪が見られ夏の名残の花が、、ｸﾞﾝﾅｲﾌｳﾛ、ｷﾘﾝｿｳ、多分ﾎｿﾊﾞﾍﾞﾝｹｲ、ﾂﾒｸｻ、ｳｻｷﾞｷﾞｸ、ﾖﾂﾊﾞｼｵｶﾞﾏ　etc　夏ならば北では見れない南ｱﾙﾌﾟｽの花が見れるのに残念。

藪沢大滝？を対岸に見て
　→12:09　丸太橋を渡り樹林帯へ入るが結構な下り。
→12:40　ﾊﾝﾉｷ展望台。甲斐駒展望台とあるが、ｶﾞｽが出始め見えません。
→12:55　大平山荘　「おおだいら」と　”ふりがな”がありました。山荘先の山を上り返すと→12:07 林道に飛び出て
→13:13　北沢峠　26 人定員になり次第発車 13:40 の臨時ﾊﾞｽに乗って　⇒戸台口
お風呂はﾊﾞｽのﾄﾞﾗｲﾊﾞｰもﾋﾟｰｱｰﾙしてた
徒歩1分の仙流荘　@600

クマさん記

１０月１０日（金）～１１日（土）　奥大日岳（個人山行）

K 池　&　カミさん
　「台風が来るので小屋しまいを早くしたいと考えています」と大日小屋のﾌﾞﾛｸに載ってるとカミさん、仕事も段取りがいいので金曜日から山へ。紅葉　第三弾！！
10/10(金)　立山　7:00　ｹｰﾌﾞﾙｶｰは定刻発車だったが、ﾊﾞｽ乗車に並んでいるうちに「今日は早めにﾊﾞｽが出ます」のｱﾅｳﾝｽ。のっけから OK。
⇒室堂は結構な混雑これは大変と思って、外へ出たら閑散皆さん雄山方面やら散策やら。
→9:04　雷鳥沢キャンプ場に到着。テントはちらほら。橋を渡り、斜面沿いに緩やかな登りの木道が続き、木道の終わる場所から乗越までは曇りでよかったとの思いの急斜面を登る。
→9:36　新室堂乗越　“ここからの展望は抜群”の筈が雲が湧いてきて残念、しかし雲の切れ間から見る噴煙あげる地獄谷が見られ、御岳の噴火が脳裏を浮かびます。
奥大日への登りにかかる草叢に少し白い色が目立ってきたツガイの雷鳥を見る。

→11:23 奥大日岳　ちょっと狭い山頂だが、丁度、雲が下がり、ここからだと、剱岳が文字通り剣のように尖って見え、雲の上に浮かぶ剱岳。これこそ剱岳の雄姿。
南には、槍ヶ岳がハッキリと見え、毛勝山、立山、薬師岳、白山とまさにパノラマ展望、眼下には雲のまにまに弥陀ヶ原が広がり、地獄谷の墳煙が見える。
　奥大日岳からは、分岐まで少し戻り、急峻な道を下り、鉄の階段を下るとコルになり、稜線上の池塘が現れ、巨岩が重なる自然の箱庭（七福園?)で、一服。
→13:26 中大日岳　七福園から緩やかに登って中大日岳の山頂を越え、ハイマツの中を急下降するとランプの宿「大日小屋」。
→13:40/57 大日小屋　時間に余裕があったので小屋でチェックインして大日岳へ向かう。
→14:17/36 大日岳　穏やかな稜線、剱岳の展望と夕日、弥陀ヶ原、、、、
→14:55 大日小屋　ランプの下の夕食は、おいしく、カミさんも小生もご満悦。
はからずも小屋スタッフのボーカル＆ギターのミニコンサートが開かれ、これまた、ご満悦。オリジナルを数曲、美空ひばりの愛燦燦、My blue heaven、極めつけはアンコールのオー・シャンゼリゼ、ナイロン弦の音とランプ灯り、いいねー。
/11(土) 小屋 6:16　夕べの余韻が冷めぬうちにと早掛け、どんどん沢道を下り大日平へ、散策するハイカー？達と出あう。[クマでは、なかった]
→8:20/28 大日平山荘　“不動滝まですぐ”とあるので、小屋の後ろに回り込むとそれは不動滝の見える場所まですぐの意味、滝は対岸にあった、が逆光で写真は無理。
登山道は牛首までは高原の木道で歩きやすいが牛首からはその先は急な下り。
→9:26 猿ヶ馬場　ここからは　遊歩道。紅葉の見ごろ。
→10:05 登山口　車道を少し登れば称名滝。
→10:18 称名滝　日本の滝 100 選で、落差では日本一を誇るらしい。「これが映画の称名滝」と話している人達がいたが小生にはチンプンカンプン。
→10:33 登山口→10:48 ﾊﾞｽ停　10:50 のﾊﾞｽに乗って⇒11:05 立山
　　あまり汗をかいてなっかたので　風呂は　コイケの湯　　クマさん記
　ちなみに 10/7 に立山方面は雪が降り剱は積雪のため“ｱｲｾﾞﾝ必須、単独登山 NG ”のお達しが県警から出され、剱に登れなかった登山者が大日小屋に流れかなりの混雑だったそうな。
10/12 で小屋仕舞いということで翌日 10/12 は収容人員の 1.5 倍の予約が殺到と小屋番さん。

１０月１８日（土）～１９日（日）明神岳５峰縦走バリエーションルート

T 島　　天気：晴れ
（1 日目）10:20 南西尾根取付→12:45 五峰直下の台地　→13:00 五峰→　13:50 四峰→14:15 三峰→15:00 二峰→15:50 主峰→17:00 奥明神沢コル（幕営）
（2 日目）7:00 奥明神沢コル→8:00～8:30 前穂高→10:00～10:20 岳沢→12:20 上高地

　晩秋最後にどこか山に行きたいと思った。やはり締めくくりは“穂高”と思い…簡単なバリエーションルートを探してみた。明神岳の五峰縦走に行ったことがなかったので単独で行ってみた。天気は絶好調の晴れで高気圧のど真ん中。

6時に家をでて、沢渡から運よく乗り合いでタクシーに乗る。(とても安くつき1050円だった。ちなみに帰りはバスで1250円)8時に上高地を出発する。まずは岳沢にむかって歩くのだが、とにかく気持ちよく、何も考えずのボーっと歩いていたら、1 時間近く歩いても梓川を右手に見ているので、どこかで岳沢に入る登山道を見過ごし、林道を歩いていたことに気づいた。慌てて戻り、№7の標識についたのが 10 時を回っていた。ここまでは登山者に良く出会った。そこで一休みして、トラロープのかかっている南西尾根に取り付く(標高 1670m)。徐々に勾配が急になるという話であったが、最初からかなりの勾配で息がきれる。赤テープと踏み跡が所々にあるから迷わないとの情報通り、赤テープはあり、踏み跡どころかしっかりした登山道があった。標高 2100mあたりから更に勾配はきつくなる。途中から木を掴んでの登りがほとんどとなる。2600mあたりでようやく勾配が緩くなり、五峰直下の台地につく。ここまでくると樹林帯を抜け視界が開けてきた。ここからは赤テープはないが、しっかり踏み跡がある。そして一挨に5峰に上る。情報通り 30 分強で着いた。この頂上に“ピッケル”が鎮座していた(写真)。なんともいえない寂しさを感じる。ここまでの標高差約1000mを2時間半で上るのだから、いかに急勾配で水平距離がないのかがわかる。

5峰頂上のピッケル

左から 3-2-主峰

そこから 2 峰までは順調に進む。五峰を降りたところでハーネスをつける。4 峰に上がった地点から、3-2-1 峰が続けて見える(写真)。この角度からみると、2 峰が一番かっこいいぞ！けれども、あそこまでのアップダウン疲れるな～と思い3峰に向かう。3峰は岳沢側に巻くのと直登するルートの二通りがあるらしい。どちらにいっても大差がないということなので直登する。しかし、このルートも頂上直下で岳沢側に巻きながら登ると書いていたが、気づくと明神池側に取り付いており、ちょっとヒヤッとする岩登りであった。慎重に足を置いていけばなんてこともないのであるが、今日は一人であり、ちょっとした不注意も許されないわけで、いつもより一歩一歩を慎重に登って、ようやく岳沢側に巻き頂上に到着する。3 峰からの下りも岳沢側に降りていって 2 峰に向かった。2 峰の登りは特に問題なく到着し、懸垂場所を探すと、東稜側に残置スリングが幾十にもかかっていた。新しそうなスリングを幾つか選び、懸垂準備をする。どちら側に降りるのかいま一つ検討がつかないので、とりあえず垂直に降りた。25m 程降りると、情報通りに棚らしきところに降りた。そこから2ピッチ目のスリングは北に 20m くらい先にあり、ちょっと嫌な場所ではあるので、そのまま懸垂ロープをつけたままトラバースをする。もう少し右側に懸垂するべきであったと思った。次の支点には新しいマイオンがかかっていたので、使わせてもらい15m程の短い懸垂をする。降りたところの真正面に主峰がある。これを登って一つ目の目標は終わり、何とか明るい時間帯に幕営できそうで、ほっとする。頂上に到着し、次はビバーク探し。この先にあると書いてあったが、それほどめぼしいところはないが“ここかな”というような場所はあったが、そうこうしている間に、奥明神沢のコルに降りる懸垂場所についてしまった。明日の朝、寒い中で懸垂をするのも嫌だし、ハーネスを付けていることだから降りてしまった。降りた狭いコルでビバークすることとなる。

2 日目は 7 時に出発する。昨晩は、とにかく寒くて熟睡はできずブルブル震えていた。やはりこの時期にスリーシーズンのシュラフはつらかった。1 時間ほどで前穂高に到着する。昨日の南西尾根からここまで誰にも出会わない。この素晴らしい景色と前穂の頂上を独占であり、こんな贅沢を 30 分ほど満喫する。まだ居たい気持ちを抑え、岳沢に向かう。重太郎新道は急斜面であり、一般登山道とはいえ、気楽に歩ける道ではない。岳沢まではひたすら我慢。ここで初めて数組の登山者に出会う。皆さん前穂高の折り返しらしい。岳沢から上高地に向かう登山道では、岳沢を往復する登山客が多いらしく、かなりの数の人とすれ違う。幾度と岳沢に来ていたが、岳沢からの穂高連峰も、涸沢から見るのと匹敵するくらい素晴らしいものであることを初めて発見した。足も疲れ果てたころ、ようやく上高地に到着し終了となる。

上高地は観光客に賑わい、こんな大きなザックを背負った人は私だけであった。
先週の連休で登山シーズンは終わっていたのか、明神縦走は私一人だけであった。穂高岳はひっそり静かなものであり、この穂高連峰で、静かな山行ができ大満足である。これからは連休明けの穂高岳に行こうと決めた。明神縦走～前穂の道は、ほぼ登山道と行って言いくらいわかりやすく難しい箇所はなかった。これを登山道にできないのは、当然であるが懸垂があるからであろう。

T 島　記

10月29日（水）子持山獅子岩マルチクライミング（個人山行）

K 林、 U 木、 H、 S々木、T 口
7号橋登山口8：15→取り付き9：30→終了点13：45→7号橋登山口15：00

マルチピッチ初心者ということで 10/27 の月曜日午前中、H さんが物見岩でシステムの説明と練習の会を企画してくださった。U 木さん・S 木さんのペアと H さん・T 口のペアで支点の作り方・セカンドビレイの方法等を練習した。ありがとうございます。当日は 60cm のスリングとカラビナ二つでアルパイン・クイックドローを5セット作って持ってくるようにとのことだった。

当日はタイから戻ってくる予定の H 部さんが 参加できると6人で3ペアだが 無理だと一組は3人になる、その場合、K 林さんがずっとリードで登ることになるという話だった。獅子岩は S 木さんの話ではほとんど 5.7 でほんの少し 5.8 があるだけだそうな。 その時点では H 部さんが参加してくれたら3ペアできるから自分もつるべで登れるぞ、と意気軒高であった。しかし、その後、H 部さんが来れないということで、残念に思ったものだった。

当日は 5:00 平青学園出発で途中、H さんの車に乗り換えて現地を目指す。しかし、思わぬトラブル発生。目印の子持神社に着いたもののどうも現地案内図と照合しない。よくよく調べると子持神社というのはもうひとつ存在するらしい。ということで目的地を再設定して出発するが ここでまたナビがエライ遠回りを指示、時間がかかってしまった。 獅子岩取り付きに着いたのがかなり遅くなってしまったため、平日というのに先客がいるではないか！

取り付きは日陰だったので寒く、早く登ってくれないかなと思ってみていると相当苦労している。やっとワンピッチ先行したところで H・S 木ペアが登り始める。最初は S 木さんがリードだ。2ピッチめ、H さんがリードで登り始めるが、思いのほか苦労している。結局5・6ピッチめをまとめて全部で5ピッチ登ったなかで5ピッチめをＨさんがリードしたそうだ。

K 林さんの靴は大き目だなと思っていたらマルチピッチには少し楽な靴を用意してある由。私はクライミングシューズは一つしかもっていないので 後で足が痛くて大変だった。

最後の一手

K 林・U 木・T ロトリオは K 林さんがリードで登る。確かに壁は難しくはないかもしれないがとにかく長いので体力が持たない。リードのビレイもすべて U 木さんにお願いして3番手に徹しさせてもらった。登るうちに日が当たるようになり、のどが渇く。脱水症が心配になるほどだ。バッグからペットボトルを取り出して飲んだが落とさずに注意して飲むのは大変だ。ペットボトルをバッグにひもで結びつける手もあるがやはり中途半端、 マルチピッチではハイドレーションパックが必要だと痛感した。

ゴールでーす

2ピッチめ・3ピッチめとハイステップが続く。4ピッチめは比較的楽だったと H さんが後で言っていたが私は余裕がなかった。結局、H 部さんが参加して二人づつのペアになったら つるべでは登れなかっただろう。H 部さんが来れなくてよかった！情けないなぁ。

とにかくマルチピッチを甘く見ていた。ひとつひとつのピッチ単独なら、確かに 5.7 とか 5.8 かもしれない。でも「量は質に転化する」のよね。勉強になった一日でした。みなさん、ご迷惑をかけましたが 本当にありがとうございました。

Ｔ口 記

編 集 後 記

御嶽噴火の際は、ありがたいことに、何人かの方から私が行ってなかったかご心配いただきました。そうそう行くわけではないが、もしかしてということもある。私も御嶽にはよく行く友達に確認をとったら、なんと彼女はあの４日前に登ってきたと。その日でなくて良かった。それにしても、自分にとってのホームゲレンデの山が無くなる（暫く登れないし、山の様相も変わったし）って、悲しいことです。そして亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。　　／とっこ

御嶽山の噴火は、あまりにも悲劇な事故となり、心が痛みます。同じ山を登る仲間として本当に悲しい限りでした。けれど誰が御嶽山の噴火を想定するというのか…？　実は、私の職場仲間からの情報では、この御嶽山の噴火を予言した方がいたそうです。そして広島の土砂崩れも予言したとか。で、今度は…〇〇山の噴火があるそうです。しばらく近寄らないようにしようと思っています。そして、御嶽山で亡くなった方　ご冥福をお祈ります。　　／てら

ボランティアで知り合った友人に誘われて vanaH 株式会社の現地工場説明会に行ってきた。ボランティア仲間というのがくせもの、人柄は信じていたので事前の誘い文句に疑義は感じながらもおつきあいした次第。

同社は天然水素水 vanaH の製造・販売を行っているが、このほど石油と水を 50%づつ混合したエマルジョン燃料製造装置を開発した由。電力会社の原油購入代金の約半分、3 兆円が削減可能！で野村証券から本年 12 月の当該部門子会社の上場について折り紙付きの評価を得ているとの説明。

そして「代理店募集」の案内。一口 130 万円を払うと代理店（AG)として登録され今後上場予定の全社について 100 株を受け取ることができる。そして 3 人以上の AG を集めると 500 株、その後、AG の数により段階的に増えるが 16 人以上だと 100,000 株というようになる由。

AG はあと 800 人、合計 18,000 人になった段階で打ち切る由。12 月の上場だけでも「一株 5 百万円以下ということはないよ、100 株だと 5 億でしょ」との石山社長の話。なぜ、そのようなうまい話をみんなに持ち掛けるかというと、「みなさんに最低 5 億は稼いでもらいたいから」とのこと。

さらに説明はエスカレート。最近は油 20%・水 80%に成功、さらに多少の界面活性剤は使うが水 100%も成功した由。また空気から発電することにも成功しており、これが実用化された暁には電力会社も（ということは同社も？）要らなくなってしまうとまで発言した。

あえて書く必要もないと思われるが　これは周到かつ緻密なマルチ商法詐欺である。ネット上にも数多くの同社に関する情報が存在する。見栄えだけはすごい工場設備の中で最低でも 5 億円というエサを見せられ　途中何度も「もしかしてこれは本物かも」と感じたことは事実であり、恥ずかしながら白状する、くわばら、くわばら。長くなってごめんなさい。　　／エリパパ